

京畿道漣川の非武装地帯(DMZ)内のイノシシへい死体からアフリカ豚コレラウイルス検出

10月3日、環境部は京畿道漣川の非武装地帯(DMZ)で発見された野生イノシシへい死体からASFウイルスが検出されたとの報道資料を発売したところ概要以下のとおり。

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?boardMasterId=1&boardId=1061645&menuId=286>

【小見出し】

南方限界線の北側約 1.4km 地域でイノシシのへい死体発見
関係機関と協力して境界地域の防疫及び予察強化を推進

【本文】

環境部(長官チョ・ミョンレ)は10月2日、京畿道漣川郡非武装地帯(DMZ)で発見された野生イノシシのへい死体の血液を国立環境科学院で精密診断した結果、10月3日、アフリカ豚コレラ(以下「ASF」)ウイルスが検出されたと発表した。

イノシシのへい死体は、該当地域の軍部隊が見つけた漣川郡に届け出たことから、漣川郡から「野生イノシシ ASF 標準行動指針」に従い、安全に試料を採取した後、国立環境科学院に輸送し、診断が行われた。

イノシシのへい死体が発見されたところは非武装地帯、韓国側の南方限界線前方約 1.4km 地点である。

韓国側の南方限界線一帯に設置された鉄柵は、科学化警戒システムが構築され、DMZ から南側への移動が遮断されている反面、北側の北方境界線に設置された北側の鉄柵は、韓国のように堅固でなく、北側から DMZ 内への野生動物の移動は可能なものと判断される。

環境部は非武装地帯での ASF ウイルス検出結果を農林畜産食品部、地方自治体など防疫当局に直ちに通知し、関係機関と協力して境界地域の防疫にさらに徹底を期する計画である。また、今回の台風の影響でイノシシのへい死体などが臨津江を通じて流される可能性に備え、河川水ウイルス調査、ボートを利用した浮遊へい死体及び河川精密調査、発見地域近くにイノシシの捕獲枠の設置など予察活動を一層強化する計画である。

国防部は非武装地帯での ASF ウイルス検出を契機に鉄柵の警戒をさらに強化し、DMZ 内の防疫活動強化および作戦遂行後の消毒に徹底を期すことで、ウイルス伝播の可能性を遮断する計画である。

また、環境部と合同で今回の台風の影響により鉄柵が脆弱になった部分の発生について点検し、必要に応じて直ちに補完する計画だ。

Q&A

1.野生イノシシの死体が発見された地点はどこか？

京畿道所在 5 師団 00 連隊 GOP 鉄柵の前方 1.4km 地点である。軍事境界線(MDL)から南に約 600m ほど離れている。

2.イノシシのへい死体はどうだったか？

外観上、他の動物による損傷はなく、死んだばかりなのでほとんど腐敗が進んでいない状態だった。

3.DMZ 内の感染イノシシが鉄柵をくぐって南側に降りてきた可能性はないのか？

韓国側の鉄柵は科学化警戒システムが構築されており、南への移動は不可能であるが、あらゆる可能性を念頭に置き警戒を強化している。

4.周辺に河川はあるのか？死体から河川はどのくらい離れているのか？

死体から半径 2km 以内に河川はなく、発見地点から北東約 2km 地点に南から北へ流れる逆谷川がある。

5.境界地域一帯の河川を介して移動するイノシシを監視する方法はあるか？

境界地域一帯の河川に軍の科学化警戒システム及び水門(格子形状など)が設置されており、野生イノシシを含めた浮遊物に対する監視を 24 時間実施中である。

6.本年、DMZ 内で発見された野生イノシシの死体は何体か？ASF 検査は実施したのか？

今回発見された京畿道漣川地域を除けば、合計 4 頭使を発見し、このうち 2 頭は試料採取後、陰性判定を受けている。2 頭の死体は腐敗して試料採取が不可であったため発見場所の近くに埋却処理した

*試料採取後、陰性判定(2 頭):鉄原 6 師団 1 件(6.9)、漣川 25 師団 1 件(6.24)

遺体の腐敗により試料採取不可(2 頭):鉄原 6 師団 1 件(7.1)、3 師団 1 件(8.2)

7.これまで国防部では DMZ 内のイノシシの死体発見のためにどのような努力をしたのか？

境界地域部隊に DMZ 作戦活動において野生イノシシの死体発見任務を追加し、調査・偵察を強化し、特に、この 9 月 26 日から 28 日までは境界地域の全部隊が DMZ 一帯で一斉精密調査・偵察を実施したが特段の問題はなかった。

8.台風発生時に監視に脆弱な事項はなかったか？

24 時間監視態勢を維持しており、停電発生時にも非常発電機を稼働し中断のない監視を実施している

9.北朝鮮当局とASF 共同対応に向けた協力計画は？

韓国政府は 2018 年、中国において ASF が発生した後、北朝鮮に ASF 関連の「南北防疫協力」を早急に推進することを継続的に提案したが、北朝鮮は現在まで何の立場表明がない状況である。

これとともに FAO など国際機関及び対北朝鮮支援民間団体等を通じた状況把握及び防疫物品支援等を持続的に推進している。

10.DMZ 内での作戦遂行後、復帰した人員に対する消毒はどのように実施しているのか？

DMZ 樋門 76 か所に対人防疫ブースを設置中(46 か所完了、22 か所 10.8.までに完了予定)であり、未設置地域には簡易防疫所を設置して噴霧器を活用し出入りする人員及び車両に対する防疫を実施中である。

*5 師団地域の樋門 9 か所には設置完了(9.16)

11.環境部は、野生イノシシによる感染の可能性が低いと発表しているが、今回の結果は可能性があるとということではないのか？

9 月 18 日、環境部は野生イノシシの伝染による発生の可能性が低いとしたのは最初の確定農家の坡州煙多山洞*についての説明である。

* 新都市周辺に位置するなどイノシシの生息が難しい環境

環境部は北朝鮮からの流入する河川水の調査、イノシシへい死体予察などあらゆる可能性を念頭に置き調査している。

12.全国や境界地域のイノシシ ASF ウイルス検出の現況及びこれまでのイノシシ ASF 調査結果は？

環境部は、中国においてアフリカ豚コレラが発生した 2018 年 8 月以来、野生のイノシシに対する ASF ウイルス検査を実施しており、イノシシでのウイルスが検出されたのは初めてである。

-'19 年 ASF 調査は計 806 件(狩猟 671 件、へい死体 80 件、捕獲檻 55 件)、二重境界地域は、計 261 件を調査しており、260 件は陰性で 1 件が陽性である。

※全国感染分析件数:('18)319 頭[陰性]→('19)805 頭[陰性]、1 頭(陽性)

13.ASF ウイルスが検出されたへい死体はどう処理するのか？

「野生イノシシ ASF 標準行動指針」に従い、現場で埋却処理しウイルスによる汚染を除去するため、現場は徹底的に消毒及び防疫措置を行う。また防疫に参加した人と装備も全て消毒措置する。

14.イノシシへい死体を発見したらどうすればよいか？

イノシシへい死体を発見した場合、接近したり、触らないで、直ちに市郡区の環境担当部署、政府コールセンター(110)又は国立環境科学院・生物安全研究チーム(032-560-7141～7150)に問い合わせさせていただきたい。

(以上)